



**「性格の悪さ」で勝てるほど、
世界は浅くない。**

バドミントンに学ぶ、勝負を制する「究極の構造思考」

勝つやつは性格が悪い
凶太い人間が勝つ
優しさは弱さだ

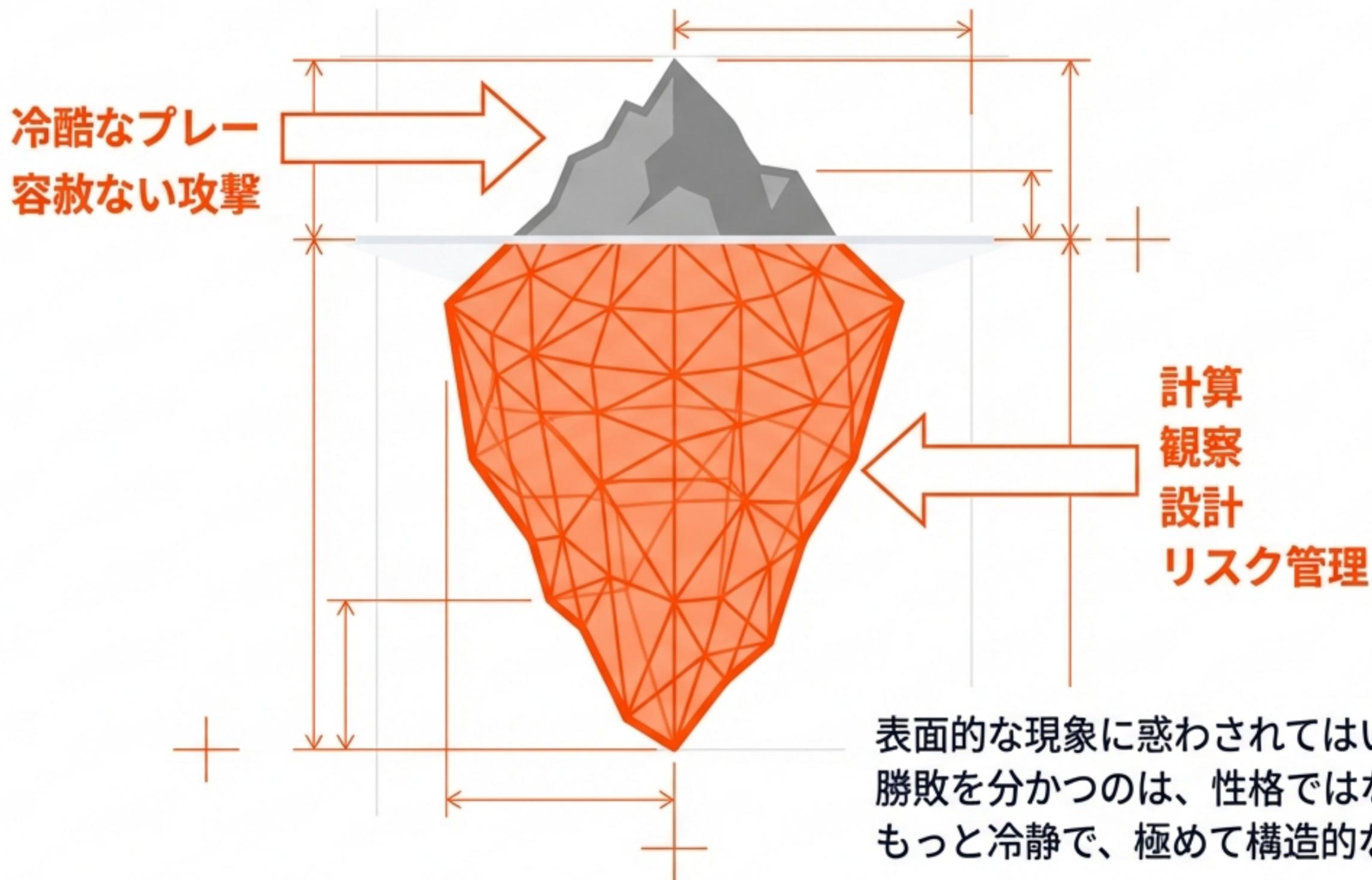
誰もが一度は抱く、ある「幻想」。

スポーツでもビジネスでも、冷酷で無慈悲な
人間が勝つように見えることがある。

しかし、それは真実なのか？

凶太い人間が勝つ
他人に配慮しない奴が強い
勝つやつ人間が勝つ
優しさは弱さだ

断言する。それは「浅い」誤解だ。



勝敗を決めるのは
「性格」ではない。

data = -16.7"

✓ 1. ミス率の徹底的な管理

✓ 2. リスクの計算と制御

✓ 3. 再現性の高い配球

✓ 4. パートナーとの同期

data : 1.0k
sowin : 1.82

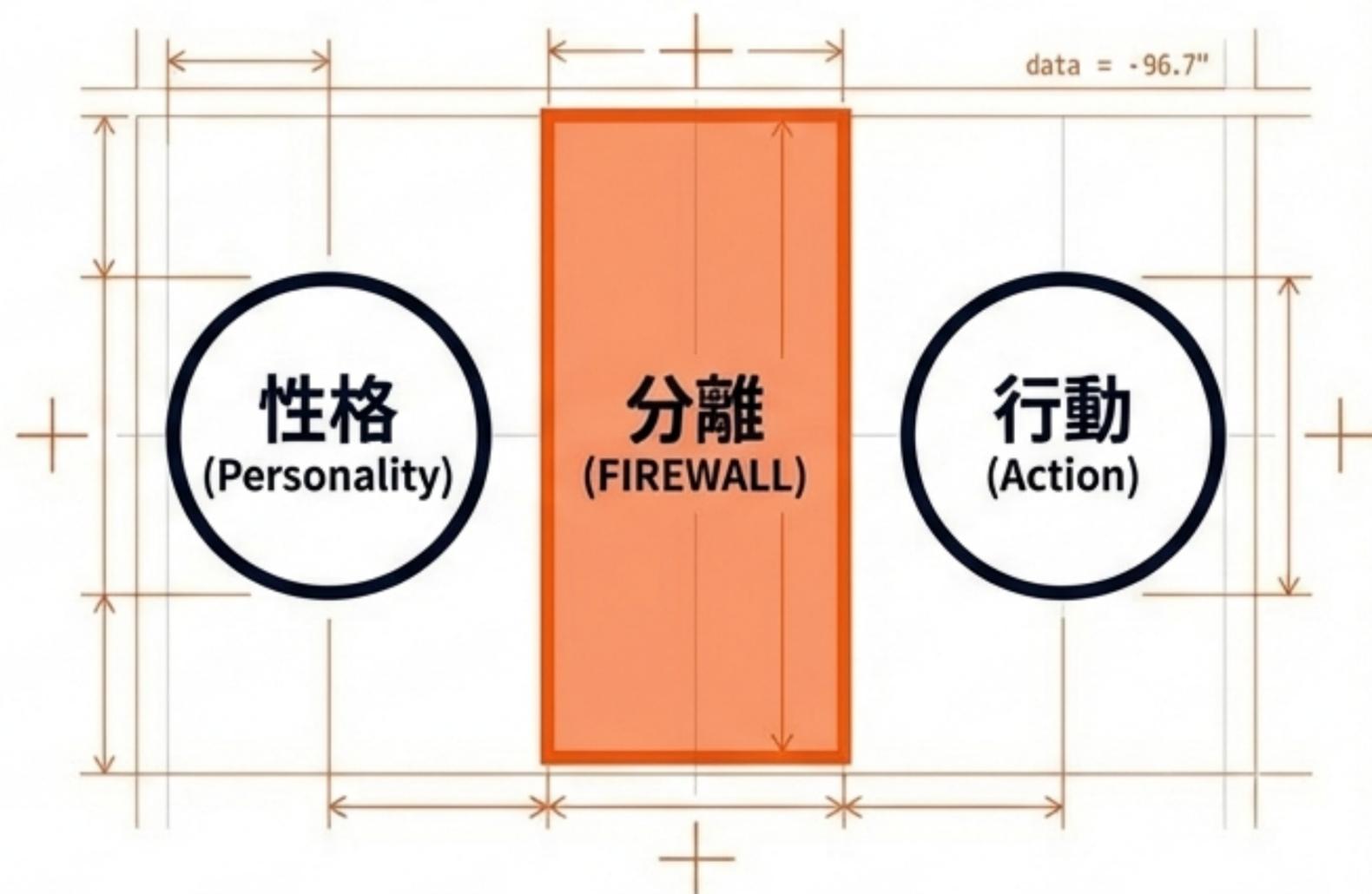
ここに「性格」が介入する余地はない。
あるのは「行動選択の精度」だけだ。

一流の証。それは「分離」にある。

AMATEUR



PRO



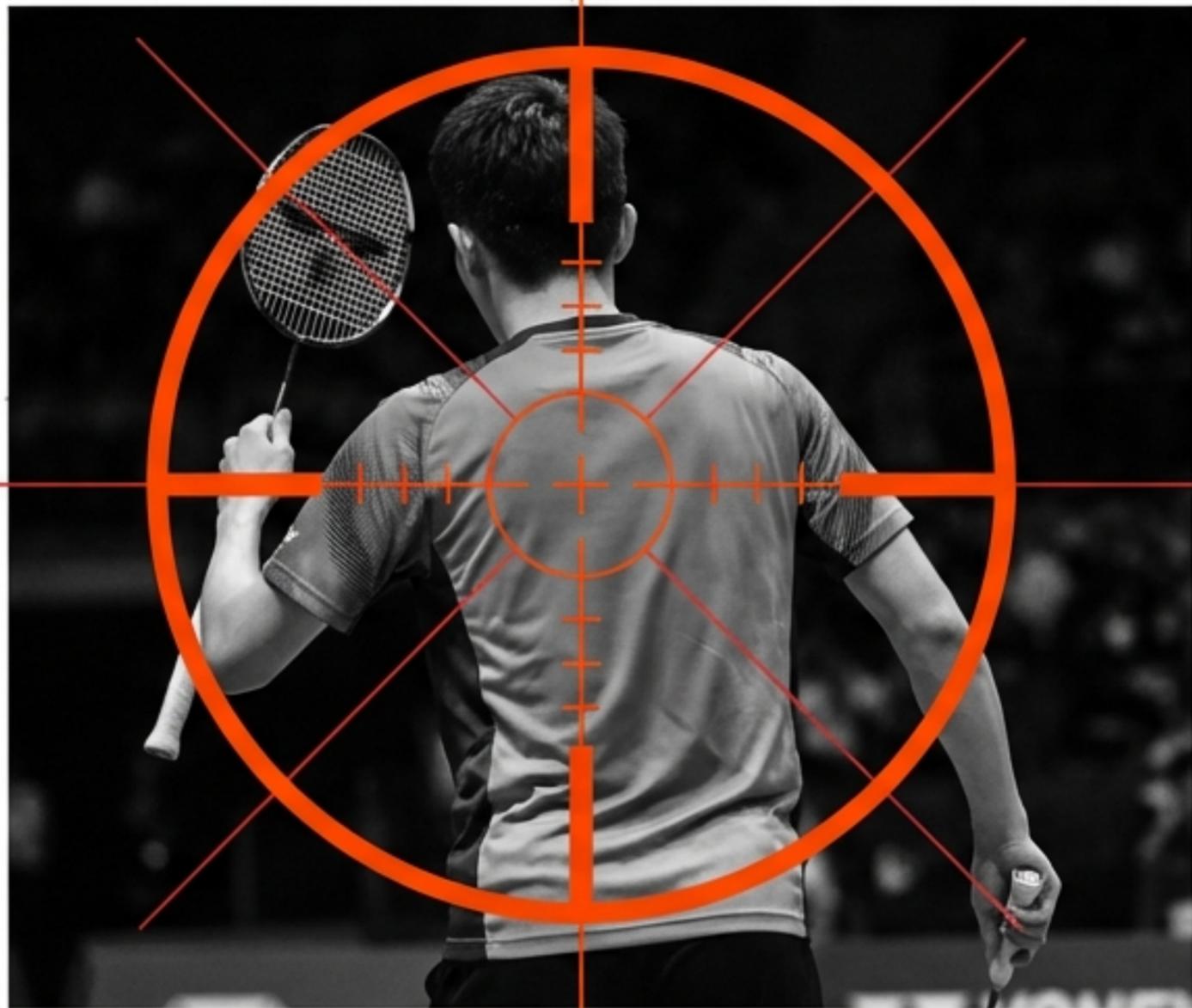
未熟な選手は性格がプレーに漏れ出す。
上級者は、性格と行動を完全に切り離す。

【公式】

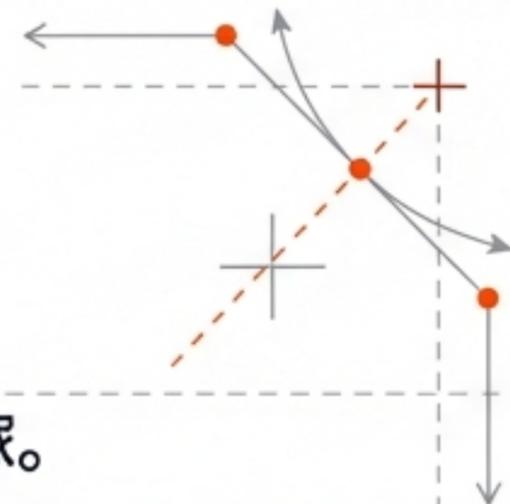
性格 \neq 勝敗

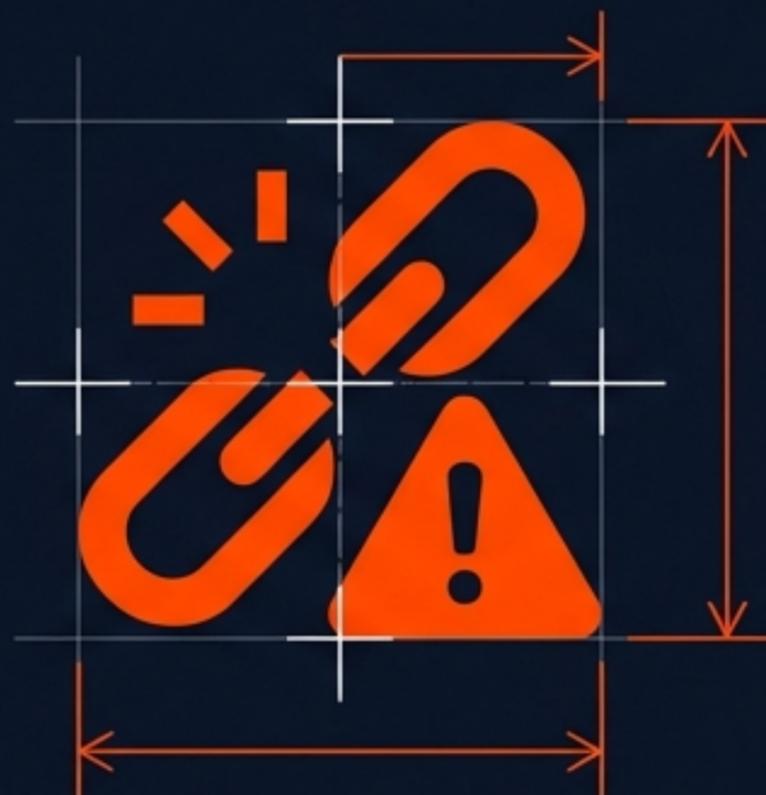
性格を変える必要はない。優しいままでいい。
求められているのは、目の前の状況に対する
「最適な設計」と「実行」だけである。

「性格の悪さ」が破壊する本当のもの。



不機嫌、威圧的な態度、責任転嫁。
その銃口が向いているのは、対戦相手ではない。
あなたの「パートナー」だ。



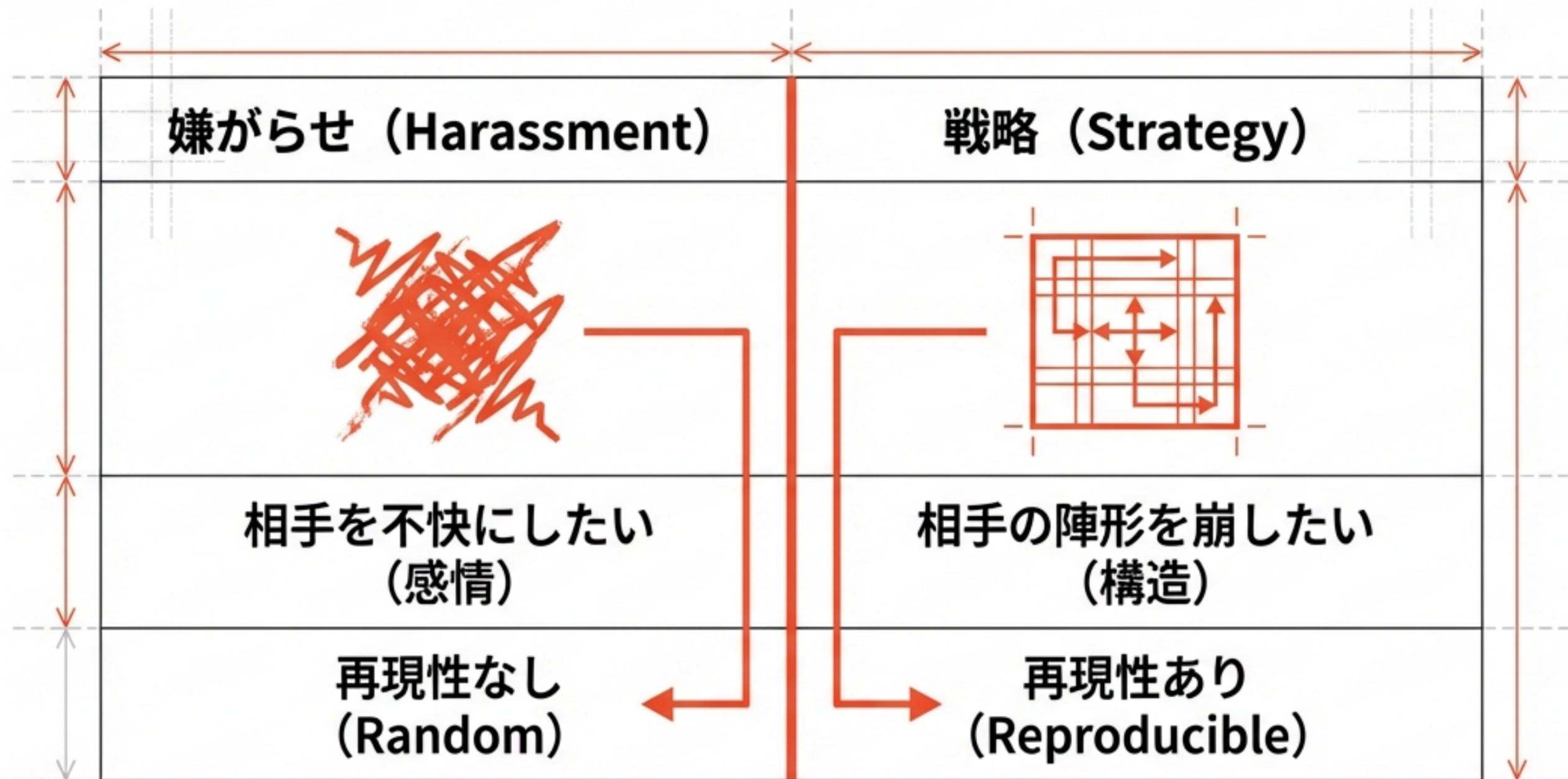


心理的安全性の崩壊 = 敗北

ダブルスは「二人で一つのOS」を動かす高度な同期作業だ。
不機嫌さは、味方のシステムを自ら破壊するバグである。

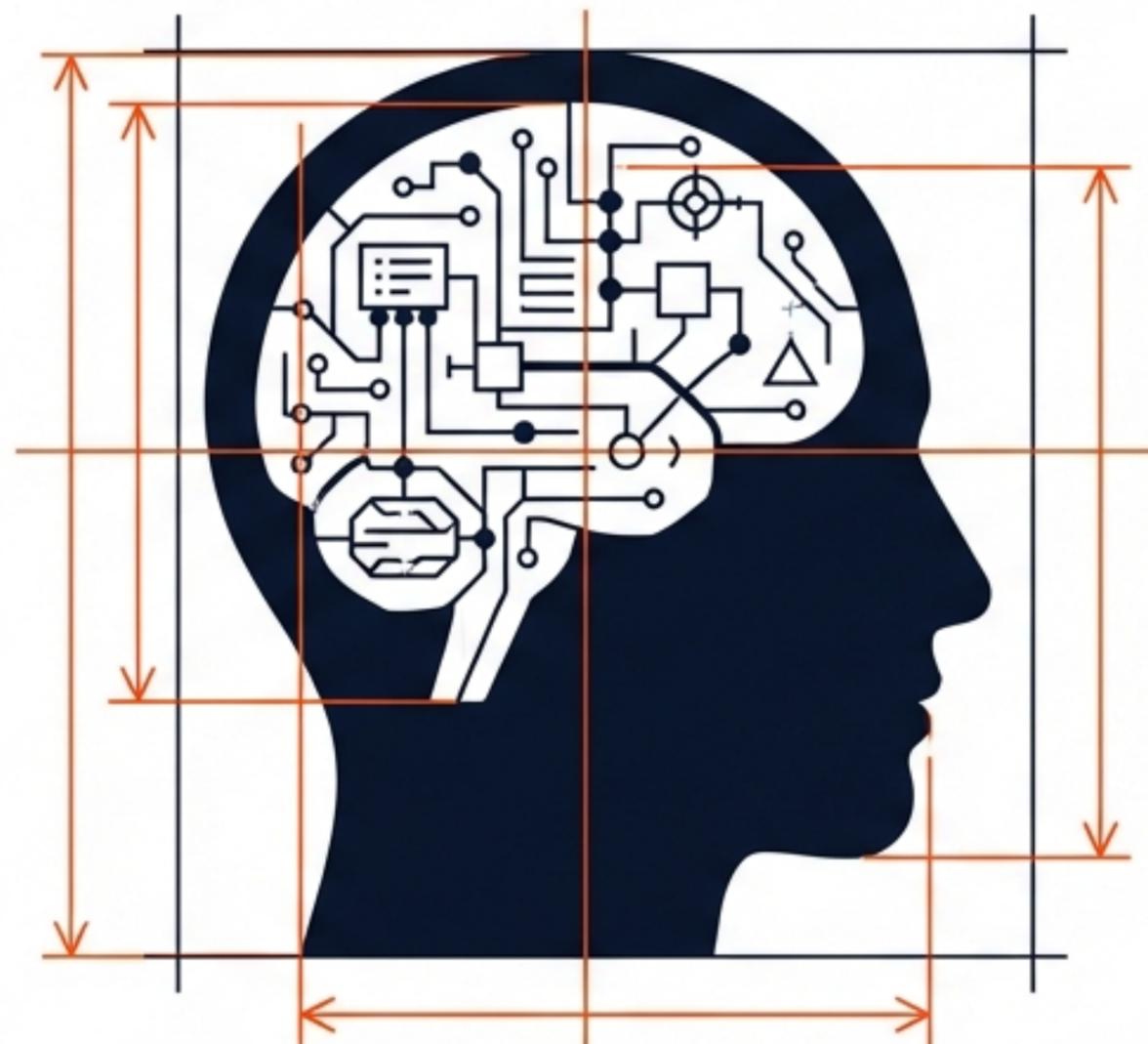
- カバーリングの遅れ
 - 判断力の低下
 - 連携の機能不全

その『嫌がらせ』は、感情か？技術か？



相手の嫌がることをするのは、悪意ではなく『データ処理』である。

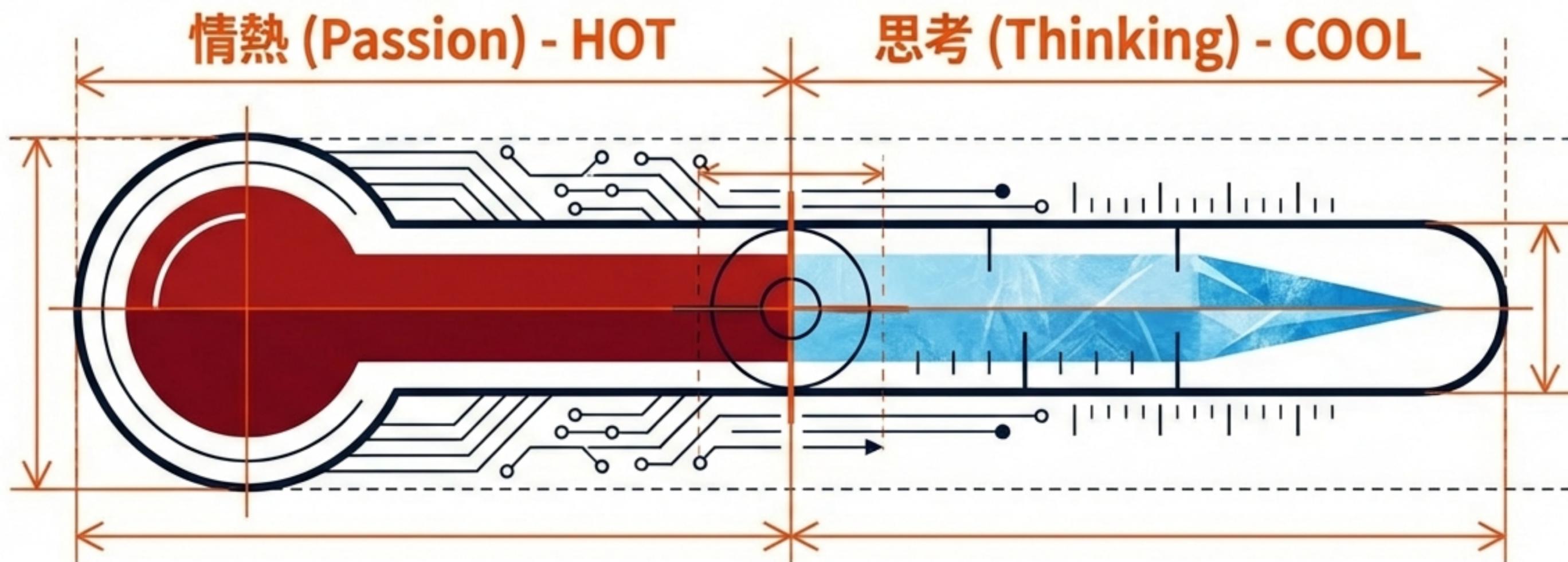
人間理解を「才能」にするな。 「技術」にせよ。



パートナーの不安、自分の欲、相手の思考。これらを言語化し、検証するプロセスを持て。
人間理解は「優しさ」ではない。勝つための「データ処理」である。

「冷酷」になるな。「冷静」になれ。

勝つ人は冷たい心の持ち主ではない。
勝利への構造を厳格に守っているだけだ。
彼らは誰よりも熱く、そして誰よりも冷静だ。



コートを支配する者の5条件

01. ミスを理論的に減らせる人
02. リスクを意図的に制御できる人
03. パートナーとの同期を何より守れる人
04. 再現性を地道に積める人
05. **性格と行動を完全に分離できる人**

今日からできる思考のトレーニング

ミス発生
(Error Occurs)

どの構造に
エラーがあった？

デバッグ・成長
(GROWTH)

どの構造に
エラーがあった？

デバッグ・成長
(GROWTH)

なんで自分は
ダメなんだ…

自己否定
(STOP)

感情的に落ち込むな。
エンジニアがバグを直すように、
客観的に原因を言語化せよ。

勝ちたいか？

ならば、

性格を変えるな。

構造を磨け。

これが、世界で通用する究極の思考法だ。



Source: PHOENIX Aichi

「性格の悪さ」で勝てるような浅い競技ではない

Produced by World Class Presentation Designer

<https://phoenix-aichi.jp/>